

平成25年度第2回研修会のお知らせ

テーマ：「いわての思春期教育をどのようにすすめるか！

指導教材（CD）作成に向けて」

日時：平成26年1月25日（土） 15時～18時

場所：岩手県医師会館（盛岡市菜園2-8-20）3階中会議室（下記地図参照）

内容：小学校・中学校・高等学校の教育教材の検討

モデル講演

パート別検討会 などなど。



いわて思春期研究会では現在、性教育の指導用CDの作成にとりかかろうとしているところです。

第2回研修会では、参加者の皆様からご意見をいただき、CD作成の参考にしたいと考えています。

幅広い職種、年齢の方の参加をお待ちしております。



皆さんの資料を募集しています

教材となるCDを作成するため、会員の皆様が学校現場などで使っている資料を集め、作成のたたき台としたいと思います。

そこで研修会前に皆さんの資料を事務局まで送っていただけませんか？対象を小学生・中学生・高校生に分けて作成します。ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

送付先：いわて思春期研究会事務局 FAX019-663-3633

e-mail: usuiyukiko1207@yahoo.co.jp

いわて思春期研究会ニュースレター

第6号

2013年12月25日発行

発行元：〒020-0107 岩手県盛岡市松園2-2-6 臼井循環器呼吸器内科内「いわて思春期研究会」事務局
FAX 019-663-3633

平成25年度いわて思春期研究会総会・研修会が開かれました

研修会は37名の参加者があり、講演、活動報告、グループに分かれての自由討論が行われました。

研修会：テーマ「思春期教育をどのように進めるか！」

日時：平成25年6月16日（日）12:30～16:30 会場：エスポワールいわて 3階 特別ホール

基調講演

「学校における思春期保健の現況」

県教育委員会事務局スポーツ健康課主任指導主事兼主任保健主事 入駒一美氏

思春期保健対策として、①性に関する指導の基本的考え方は生命尊重の精神を基盤として、児童生徒の発達段階に応じて性に関する科学的知識を理解させること。②児童生徒が健全な異性観を持ち、これに基づいた望ましい行動がとれるようにすることを目標にしていると示されました。

平成24年度の生・エイズに関する教育実施状況の調査では小学校では教科書の中に含まれてきているところもあり、また、高校での実施率が増加したとのことでした。

また、岩手県における平成24年度の人工妊娠中絶率は低下してきており、平成21年度は全国23位までに減少しているとのことでした。今後も、生き方あり方教育である「性＝生の観点」からも各学校での性・エイズに関する教育の推進が必要であると話されました。

活動報告（会員が行っている思春期教育の実際）

「小学校・中学校での思春期報告」 いわて思春期研究会副会長 臼井由紀子氏

小学生では、「自分の体についてどのくらい知っているかな？」として、男女の体の違いについて説明し、自分を大切に、みんなを大切にする事の大事さを伝えること。そして、中学生には、「思春期の君たちへ」として、基本的な2次性徴からの大きな体の変化についての理解を深め、妊娠する体に成長している時期にあることを伝えること。そして、この時期の妊娠や出産、性感染症、人工妊娠中絶等に関連するリスクについて具体的に示し、自分を大切にすることが人を大切にすることに繋がるというメッセージを送る必要がある

「高等学校での思春期教育」 いわて思春期研究会副会長 秋元義弘氏

性行動や性に関する調査結果をデータで示し現在の10代の実態について話されました。そして、正しい知識の普及のために具体的になぜ中絶を避けた方がよいのか、また子育てに必要な資金や性被害から身を守るスキル等を示しながら、健全な性行為について個々で考えられるようなメッセージを送ることの大切さを伝えることが大切と話されました。

自由討論「小学生・中学生・高校生にどのように伝えるの？」

3つのグループに分かれ、活発な討論が行われました。



～思春期世代と向き合うすべての人へ～

岩手塾2013

2013年8月10日(土)～11日(日) in 赤い風車(盛岡市鶯宿温泉)

思春期の問題について、若者はどう向き合っているのか、専門家はどうか。一堂に会して、今後のヒントを得る、そのような塾をめざして平成25年8月10日(土)～11日(日)岩手県盛岡市鶯宿温泉「赤い風車」にていわて塾2013を開催しました。

本事業は、いきいき岩手支援財団 いわて子ども希望基金の助成をいただいて実現できました。短時間で濃厚なディスカッションを行い、最大限の効果を得るため、合宿研修の形としました。プログラム、詳細な報告はホームページをご参照下さい。

参加人数は一般 14名、学生 18名 合計 32名(うち 25名宿泊)でした。



参加者の感想より

若者や大人、学生、専門家など立場や年齢の異なるメンバーで話をすることで、様々な視点から物事を考えることができ、おもしろかった。これからもぜひ参加させていただきたいと思った。(adult)

イベント参加前はこんなに得るものが多いとは思わなかった。夜のお話し合いはすごく近い距離で話すことができ良かった。またこういう機会があったら参加したい。参加して本当に良かったです。(young)

自分が今これからどんなことができるのか、ものごとの本質を考えることや仲間と話し合うこと、意見を出し合うことをこれからも大切にしていきたいと思いました。まずは自分と近くの人との関係性を大切にしながら子ども達に伝えていけるようになりたいと思います。貴重なお話しをありがとうございました。(young)

神々の講演を聞いて、現状や考え方、対策などを学びましたが、答えの出ない問題も多くて正直モヤモヤしています。でも、この気持ちを原動力に継続して考え、何かひとつでもアクションを起こせるようになりたいと思いました。2日間本当にありがとうございました。(young)

普段、性のことについて聞く機会がなかったのて詳しく専門家から聞けて良かったです。デートDVのことや思春期の男の子の現状は知らないことばかりだったのでたくさん学びました。講座でもあったように知っているのと知らないでは全然違うので、発信できる側になりたいし、いろんなことを学んでいきたいです。(young)

色々な考えがあるということがわかった。何が正しいということではないことがわかった。(adult)

岩手塾の内容報告

～中身の濃い充実した2日間でした～ (報告: 秋元先生)

【1日目】

・講演 ① 「思春期の男子は何を抱えているか」

講師: 岩室 紳也 氏(公社)
ヘルスプロモーション研究センター センター長

初交経験率、HIV感染・AIDS患者数、人工妊娠中絶率、児童虐待数等、種々のデータや自身の経験に基づき、現代の男子に起きている問題や現象について解説。最近の理解に苦しむ事件の多発について述べ、その根本的な部分に關与する共通課題として「関係性の喪失」をあげた。

総じて、かかわり・つながり・支え合う「環境・居場所づくり」が重要であることが話された。

・トークセッション

「神に問う!～何でも答えていただきます～」
「青少年をとりまく環境 草食化?リアルはきらい?」

講師の岩室氏、上村氏、世話人秋元先生と参加者のフリートークセッション。司会進行は世話人(いわて思春期研究会副会長)佐藤卓氏。岩室氏の講演を受けての感想、疑問や普段自分が感じていること等が挙げられた。

夕食後、深夜までフリーディスカッションが熱く語られた。

【2日目】

・講演 ② 「メール相談から見えてきたこと」

講師: 上村 茂仁 氏 ウィメンズクリニック・かみむら院長

上村氏は普段から思春期世代の子供たちから1日100件を超すメール相談受け付けており、相談件数は時期によって特徴があることについて紹介された。最近の傾向としては、LINEによる相談にて、既読無視を気にする子供たちが増えているとのことであった。デートDVに関して、普通の恋愛からDVが起こっていることから、DV防止教育は普通の恋愛から行うことが重要。デートDV防止のために支援者の姿として求められるものとしては、「気づく、聴く、よりそう、大人につなぐ、一人一人をみる視点をもってほしい」とのコメントがなされた。

・トークセッション 「年代を越えて 私たちがなすべきことは？」

講師の上村氏、岩室氏、世話人秋元先生と参加者のフリートークセッション。司会進行は世話人佐藤卓さん。上村氏の講演を受けての感想、疑問や普段自分が感じていること等が挙げられた。大事なこととして、親子、友達、恋愛といった関係性の教育と居場所が必要。

おわりに・・・: 事業の効果

フリータイムトークにおいては、講師を中心に若者、大人が車座になって座り込み、垣根のないすぐ隣でお互い話をし合うという、他ではあり得ない環境を作成。日頃の想い、疑問、意見を交換し合い、うなずきあい、理解を深めることが可能であった。教育方法として一方的知識の伝達になる講演方式はある程度効果があるとしても、最終的に「自分の言葉で実感する」ことが最もその効果が高いことはすでに実証されており、著名な講師と「同じ時間を共有し、とことん話し合う経験」が若者たちへの高い教育効果を期待させるには十分であった。また、大人側もほとんど話をする事のない世代と存分に意見を出し合うことができる時間は非常に貴重なもので、思春期世代に対しての取り組んでいるそれぞれの専門性に更に今の若者の考え方、感じ方を加えることができたことは、今後のさらなる発展を期することができた。

一般的講演、ディスカッション方式ではなく、あえて宿泊研修形式とした効果を最大限得ることができたと考えている。参加者からの評価も非常に高く、毎年実施していただきたいという要望を多数いただいております。ぜひ「いわて塾」として継続した事業としていきたい。